

令和6年度（2024年度）北海道優良品種認定審議会 議事録

（と き 令和7年（2025年）2月10日（月）14:00～
ところ 第二水産ビル 4 S 会議室）

1 開会

【花岡農産振興課長】

皆様、お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。ご案内の時刻になりましたので、ただ今から、令和6年度北海道優良品種認定審議会を開催いたします。

私は、道庁農政部の花岡と申します。しばらくの間、進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日の審議会は、会場での参加とオンラインでの参加を組み合わせた開催となっておりますので、何点か留意点をお伝えいたします。会場にお越しの皆様は、会場では携帯電話はマナーモードもしくは電源をオフにさせていただきますようお願いいたします。一般傍聴者の方につきましては、通信環境の安定のためにカメラとマイクを常にオフにさせていただきますようお願い申し上げます。

それでは、開会にあたりまして、北海道農政部生産振興局長の牧野よりご挨拶申し上げます。

2 挨拶

【牧野生産振興局長】

ただ今、ご紹介に預かりました北海道農政部生産振興局長の牧野でございます。北海道優良品種認定審議会の開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。本日はご多忙の中、また、お寒い中、委員の皆様におかれましてはご出席いただきましたこと、また、日頃から農業農村振興にご尽力いただいておりますことをこの場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

さて、昨年の本道農業につきましては、全般的に天候に恵まれ、米の作況指数は103とやや良となり、主要な農作物も、概ね平年並み以上の作柄となったところでございます。これもひとえに農業者の方々をはじめ、関係者の皆様の並々ならぬご努力によるものであり、心より感謝申し上げます。一方、本年の営農準備が始まる中、先週の十勝地方などでは大変な大雪となるような状況となっております。今でも、除排雪等に懸命に取り組まれていることを承知しております。国におきましては、昨年6月、食料安全保障の確保や環境と調和のとれた食料システムの確立などを基本理念として、農政の基本となる「食料・農業・農村基本法」が四半世紀ぶりに改正され、本年度中には、法に基づく各般の施策を計画的に推進するための新たな基本計画が策定される予定でございます。道では、こうした動きを北海道農業の好機と捉え、我が国の食料供給地域である本道の実情を踏まえた実効性のある計画となるよう、特に、企画部会の中では私どもの農政部長も委員となっておりますので、そのようなところで声を挙げながら、国に対し、農業団体の皆様をはじめ、経済や消費者団体、市町村などオール北海道による政策提案などを積極的に行っているところでございます。

本日の審議会でございますけれども、北海道主要農作物等の種子の生産に関する条例に基づく知事の附属機関として優良品種の認定と取消しにつきまして、ご審議いただくことを目的に設置しております。先般の人事異動に伴い委員の改選がございまして、委員10名のうち

1名の方に新たにご就任いただいております。貴島会長を始め、委員の皆様には改めてよろしくお願い申し上げます。

本審議会でご審議いただく優良品種につきましては、栽培上や利用上の特性に優れ道内に普及すべき品種として、本道農業の持続的発展に欠かせないものでございます。今回は、本年1月の北海道農業試験会議におきまして、優良品種候補とされた6品種と認定取消し候補とされた14品種につきましては、それぞれご審議いただくこととなっております。

皆様方におかれましては、生産、流通から販売、そして消費といった、それぞれのお立場で忌憚のないご意見を賜り、ご審議いただきますようお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

3 委員等の紹介

【花岡農産振興課長】

それではまず、本審議会の委員のご紹介、併せて、この度の異動で新たにご就任いただきました委員についてご報告させていただきます。最初に会場にご出席の委員の皆様から、着席順にご紹介させていただきます。初めに、北海道大学大学院農学研究院教授の貴島会長でございます。

【貴島会長】

貴島です。よろしくお願いいたします。

【花岡農産振興課長】

続きまして、江別保健所管内栄養士会会長の石井副会長でございます。

【石井副会長】

よろしくお願いいたします。

【花岡農産振興課長】

続きまして、北海道農産物集荷協同組合代表理事の高井委員でございます。

【高井委員】

高井です。どうぞよろしくお願いいたします。

【花岡農産振興課長】

続きまして、ホクレン農業協同組合連合会農産部長の長谷川委員でございます。

【長谷川委員】

長谷川です。よろしくお願いいたします。

【花岡農産振興課長】

続きまして、独立行政法人家畜改良センター十勝牧場長の関委員でございます。

【関委員】

関です。どうぞよろしくお願いいたします。

【花岡農産振興課長】

続きまして、北海道指導農業士の吉村委員でございます。

【吉村委員】

吉村です。よろしくお願いいたします。

【花岡農産振興課長】

続いて、本日はオンラインでご出席をされている、北海道種苗協同組合理事長の坂倉委員でございます。坂倉委員におかれましては、今回新たにご就任いただいております。よろしくお願いいたします。

【花岡農産振興課長】

また、一般社団法人北海道農産協会の五藤委員、北海道農業協同組合中央会の伊藤委員、

札幌みらい中央青果株式会社の杉本委員につきましては、本日はご欠席となっております。
委員の皆様どうぞよろしくお願いいたします。
次に地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部からのご出席者をご紹介します。
初めに、農業研究本部の鈴木企画調整部長でございます。

【鈴木企画調整部長】

よろしくお願いいたします。

【花岡農産振興課長】

続きまして、中央農業試験場の神野作物開発部長でございます。

【神野作物開発部長】

神野です。どうぞよろしくお願いいたします。

【花岡農産振興課長】

続きまして、酪農試験場の出口草地研究部長です。

【出口草地研究部長】

出口です。よろしくお願いいたします。

【花岡農産振興課長】

本日は、神野部長と出口部長に優良品種候補の説明を行っていただきます。どうぞよろしく
よろしくお願いいたします。

最後に道農政部の出席者を紹介いたします。先程、ご挨拶申し上げました道農政部牧野
生産振興局長です。

【牧野生産振興局長】

よろしくお願いいたします。

【花岡農産振興課長】

続きまして、技術普及課の山上首席普及指導員でございます。

【山上首席普及指導員】

山上です。よろしくお願いいたします。

【花岡農産振興課長】

最後に、農政部農産振興課川上主幹です。

【川上主幹】

川上です。よろしくお願いいたします。

【花岡農産振興課長】

最後に私、農産振興課長の花岡です。どうぞよろしくお願いいたします。

4 委員の出席状況報告

【花岡農産振興課長】

次に、委員の出席状況報告ですが、本日は委員 10 名のうち 7 名の委員がご出席されてお
りますので、北海道主要農作物等の種子の生産に関する条例第 20 条第 2 項の規定によりま
して、委員の 2 分の 1 以上がご出席されておりますので、本日の審議会が成立することをご
報告申し上げます。

5 諮問

【花岡農産振興課長】

次に、北海道主要農作物等の種子の生産に関する条例第 17 条に基づく諮問でございます。
生産振興局長の牧野から貴島会長へ諮問書をお渡しさせていただきます。

～牧野生産振興局長から貴島会長へ諮問書を手交～

【花岡農産振興課長】

ただいま委員の皆様には写しを事務局からお配りしております。

オンライン出席の委員の坂倉委員にはパソコン画面に表示をさせていただいておりますので、表示されているかどうかご確認をお願いします。

～諮問書が委員の手元に行き届く～

【川上主幹】

それでは諮問の説明に入らせていただきます。お手元の諮問書をご覧ください。本審議会に諮問いたします「北海道農作物優良品種の認定及び取消し」について、諮問の趣旨や優良品種認定案、優良品種の認定取消し案についてご説明いたします。

諮問書の1枚目下の方に諮問理由が記載されてございます。諮問は北海道主要農作物等の種子の生産に関する条例第8条第1項の規定に基づく優良品種の認定、並びに同条第4項の規定に基づく認定の取消しに当たり、本審議会の意見を求めるものでございます。

続いて、諮問書の2枚目に諮問の趣旨が記載されてございます。趣旨の記載の中ほどから先ほど述べました条例において、知事は道が普及すべき農作物等の重要な品種を認定できるとされております。当該品種の認定に当たって知事はあらかじめ、北海道優良品種認定審議会の意見を聞くこととされ、また、認定の取消しに当たっても、認定の手続きを準用することとされていることから、本日、諮問書に記載されておりますとおり、6品種の優良品種認定案、そして14品種の優良品種認定取消し案について、本審議会の意見を求めるものでございます。ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。以上でございます。

【花岡農産振興課長】

それでは、この後の進行につきましては、貴島会長にお願いいたします。貴島会長、よろしくお願いいたします。

【貴島会長】

ただいまの諮問を踏まえまして、議題に沿って議事を進めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、議事の1の北海道農産物優良品種の認定案について審議をいたします。

6 議事

(1) 北海道農作物優良品種の認定（案）について

① 小麦「きたほなみR」

【貴島会長】

今回知事から諮問のあった品種は6品種です。畑作物、飼料作物の順に説明していただき、審議することといたします。初めに、小麦の「きたほなみR」について、ご説明をお願いいたします。

【神野作物開発部長】

中央農業試験場の神野です。改めまして、よろしくお願い申し上げます。資料の1ページ目をご覧ください。秋まき小麦「きたほなみR」、試験系統の番号としては「北見99号」とい

うことで、農業試験場では研究を進めてまいりました。この品種については、北海道の小麦の作付けのおよそ4分の3を占めております「きたほなみ」を置き換え対象とする日本めん用の新しい品種ということになります。特性の概要ということで1ページ上の方来歴のところからご説明いたします。「きたほなみR」につきましては、道総研の北見農試を中心として育成してきた品種でして、北見農試の方で母親を「きたほなみ」、父親の方には縞萎縮病抵抗性を持っている「OW104」と言う交配母本を介して育成してきたものです。交配については「戻し交配」を行っておりまして、この「OW104」の持っている縞萎縮病抵抗性を「きたほなみ」に導入する、そして「きたほなみ」が元々持っている良い特性をそのまま引き継ぐということで、交配を行った1代雑種に「きたほなみ」をさらに5回戻し交配をした材料から選抜されてきた品種になります。コンセプトとしては、「きたほなみ」の良いところをそのまま引き継ぎながら縞萎縮病抵抗性だけを付与した品種を目指した品種改良を行ってきたところです。こちらについては2020年度より優良品種の決定調査に供試しておりまして、育成の過程で権利確保のために品種登録出願を行っており、昨年8月に「きたほなみR」の名前で品種登録の出願公表がされております。

特性については中程の(2)をご覧ください。連続戻し交配と先ほど言いましたけれども、縞萎縮病抵抗性を導入した「きたほなみ」の準同質遺伝子系統と書いております。専門用語ですので言い方を変えますと、縞萎縮病抵抗性以外の性質はほぼ「きたほなみ」と同様とお考えいただければと思います。表1の下の方の段のところに、北海道で栽培する上での主な病害、あるいは障害に対する耐性を書いております。上段が「きたほなみR」、下段が「きたほなみ」となります。一番大きく変わっているところが表の右から2列目の縞萎縮病です。こちらの抵抗性については「きたほなみ」がやや弱なのに対して「きたほなみR」は強ということで、ここが大きく異なっております。その他の病害、障害、性質についてはほぼ「きたほなみ」と同様で、うどんこ病が若干強いデータになっておりますけれども「きたほなみ」自体が十分な抵抗性を持っておりますので、普及上は大きな差異にはならないというふうに理解しています。

それから、生育・収量調査については表2をご覧ください。こちらは、縞萎縮病が発生した条件での試験となります。こちらの上段「きたほなみR」が下段の「きたほなみ」に比較いたしまして、縞萎縮病が3カ年の平均で「きたほなみ」の方が2.9という発病程度を示しています。縞萎縮病の発病程度については0から4、無から甚の5段階で評価しておりまして、4まで上限がある中での3に近い数字と言うことで、かなり発病がしっかり観察されていて、収量にも影響があるほどの発病を示していた数字になります。成熟期が「きたほなみ」よりも3日早く、桿長が5cm長く、子実重については「きたほなみ」の687kgに対して801kgと標準対比の数字は100%に対して117%ということで、3カ年の平均で17%の多収ということでした。千粒重は2.5グラム重く、原粒蛋白は0.4%少ないという結果になっています。これが縞萎縮病が発生した条件での情報です。縞萎縮病が発生しなかった条件では表3になりますが、今申した成熟期、桿長、子実重の99%、千粒重、原粒蛋白ともに「きたほなみ」と同程度ということで、ほぼ「きたほなみ」と差が無い生育をしております。縞萎縮病の発生したほ場では非常に多収になるということで、発生していないほ場でも全く同じ生育を示すということで、発生していない畑でもデメリットは無いということになります。その下、長所及び短所の部分では、長所は縞萎縮病抵抗性が優れる、短所は特にないというふうに評価しております。用途は「きたほなみ」と同じ日本めん用です。

品質特性については2ページ目の一番下、表4をご覧ください。「きたほなみ」の特徴としては、既存の道産の日本めん用の品種と比較して、製粉歩留まりが非常に高いことと、良い粉がたくさんとれるというミリングスコアも品質が高い方が良いということがありますが、両方とも「きたほなみ」と同等の数字になっています。それから実需者A、実需者Bから、

この実需者Aというのが国内の大手製粉会社様が集まる団体、実需者Bは道内の製粉会社様の集まる団体での評価ということになります。いずれもめんの色、めんの食感の部分でも、全く差が見られないということで同等に使えるという評価をいただいています。

2ページの上の方に、この品種を候補とした理由を説明しております。縞萎縮病については平成3年、1991年に発生確認されてから全道で徐々に発生が拡大しております。ここ数年ですと主産地の十勝あるいはオホーツク地域といったところでも非常に発病が目立ってきております。縞萎縮病に罹病した小麦については、収量が最大で5割程度減少するですとか、先ほどのデータにもありましたとおり収量減が知られております。この病害への対策については、各現場の方からも喫緊の課題として要望されてきておりまして、ただこの病害については土壌伝染性の病害であることもありまして、薬剤や輪作での防除が非常に難しいというところがありました。それで抵抗性品種というものが常に求められてきたというところがあります。また、この病害の発生を抑制するという意味でも抵抗性品種への置換えというのが必要であるというふうにいわれておりました。「きたほなみ」については、最初に申しましたが、面積としては道内の小麦の4分の3の面積を占める、9万haほどを占める基幹品種なんですけれども、縞萎縮病抵抗性がやや弱と不十分でこの部分をしっかりと強化したもので置き換えていきたいということで、この品種提案となっております。

なお、先行して「ゆめちから」というパン用の小麦が抵抗性をもっているんですが、全体の需給バランス、用途が異なるということもありまして、これ以上の作付面積の急激な増加はなかなか難しいということで、需要の大きな日本めん用の新種のご提案という形になってきております。普及の栽培適地としては北海道一円、見込み面積としては「きたほなみ」の全面置き換えの9万haを見込んでおります。農業試験会議においても普及奨励事項ということで判定を受けているということです。説明、以上になります。ご検討よろしく願いいたします。

【貴島会長】

ありがとうございます。それでは、ご質問、ご意見を伺いたいと思います。会場におこしの委員の皆様、オンラインでご出席の坂倉様、ご意見がございましたら挙手をお願いいたします。

～吉村委員挙手～

【吉村委員】

生産者なんですけれども、これは「きたほなみR」という「R」を付けただけの品種なので、以前作っていた「きたほなみ」と混じってしまう、栽培上、一緒になってしまうということはあるのでしょうか。それか、別に影響は無いと思ったほうが良いですか。

【神野作物開発部長】

これから種子協議会等での話になってくると思うんですけれども、関係者と打合せているところでは、種子生産の段階から「きたほなみ」を切り替えていくといったところになりますので、基本的には「きたほなみ」と重複して作る、栽培する期間というのはあまり長くはないだろうというふうには想定しております。特性としては、私も品種改良に関わっておりますけれども、見た目では全く分からないので、種子の段階から混ざらないような取扱いというのは、特に種子を配布するような段階では大事なことで考えております。利用上の場面では、実需者評価の中でも全く差異が無いというところであるんですが、実需上の取扱いについてはまた別の仕組みの中でやっていくことになりますので、生産の場面では取り扱える品種ということにはなるかと思えます。

【吉村委員】

作っていく段階で、農協単位で混じらないようにというか、そういう段階というのは何年かあるということですか。

【神野作物開発部長】

品種の特性と離れてしまうため明確な答えが出せないですけども、「ホクシン」から「きたほなみ」に変わったときでも、2年程度重複する期間がありましたので、その可能性は十分、種子を増やすのに期間が必要ですので、少し必要になってくる可能性もあるかとは思いますが。種子協議会ですとか普及の場面で検討されることになると思います。

【吉村委員】

分かりました、ありがとうございます。気をつけます。

【貴島会長】

その他、ございますでしょうか。

～長谷川委員挙手～

【長谷川委員】

ホクレンの長谷川でございます。ただ今、吉村委員からもございましたけれども、縞萎縮病というのは生産現場でも課題になっているということはお承知おきのとおりでございます。我々も深刻な状況であるというふうにご承知しております。そのような中で、安定供給に資するという観点から、この「きたほなみ R」の普及に関しましては、生産者側にとっては非常に期待の品種だということに我々は考えております。また、実需者側からの要望としましても、安定供給が求められている中で、小麦生産における北海道の位置づけは非常に高いものとなっております。その中で、実需者サイドの求める安定供給に資する品種だというふうに我々は認識しております。そういったことから、品質面につきましても今ご説明いただいたとおり「きたほなみ」とほぼ変わらないといったところ、「きたほなみ」自体が品種として近年本当に実需者側からの要望にマッチしていると我々も捉えておりますので、総合的な安定供給、または品質面ということで、私どもとしてはこの品種については、是非認定いただければと考えております。

また、今種子の関係で吉村委員からありましたが、我々も種子協議会では、担当部署からご意見を言わせていただくことになると思われませんが、実需者側にとってみると、かつての「ホクシン」からの入れ替えの時と同様に、非常に慎重を期する必要があると、実需評価をきちっといただきながら普及の方に進むべきと思います。生産側、実需側それぞれに求める部分を満たしていくことによって、この品種が将来的に実需者側の評価が高まるとわれ、慎重にかつスピーディーな執り進めが必要かと思っております。今後の検討の場でご意見させていただきます。以上です。

【貴島会長】

ありがとうございます。他にご意見ございませんでしょうか。オンラインでご参加の坂倉様、ありますか。

【坂倉委員】

特には、ございません。

～高井委員挙手～

【高井委員】

ホクレンさんからもあったように、この品種を早期希望されている方がいるのを私も承知

している。ただ、問題は、この品種を実際に生産者が作付けするのは何年かかるのか、分かる範囲内で教えていただきたい。

【花岡農産振興課長】

種子協議会を主催しております農産振興課なんですけれども、今後優良品種に認定されれば、夏の8月に毎年開催している種子協議会の方で、関係者の皆様の意見を聞きながら、どのようなスパンで増やしていくのかを協議してまいりたいと思いますので、今何年かけてといった具体的な数字は申し上げられないですが、いずれにしても長谷川委員からご指摘のあったとおり、慎重かつスピーディーな増殖の方を皆様と協議しながら進めていきたいというふうに考えております。

【高井委員】

なぜそう言ったかという、縞萎縮が出ている地区ではどうしても「ゆめちから」の方に行ってしまう。ここに書いてあるとおり、「ゆめちから」が増えすぎてもらっても困る。できれば、なるべく早く「きたほなみ R」が出てくれればいいなという思いがあって質問させていただいた。

【花岡農産振興課長】

ご意見を踏まえまして協議を進めていきたいと思います。

【貴島会長】

ありがとうございます。その他、ございませんか。

～挙手なし～

【貴島会長】

今データを示していただいたんですけれども、「きたほなみR」は縞萎縮の状況の中の方が、収量が高いというようなデータだったということでしょうか。

【神野作物開発部長】

基本的な特性は「きたほなみ」と同じであり、縞萎縮病にかかりづらい抵抗性を持っていますので、春先の生育が遅れ草丈が小さくなって、粒が小さくなり収量がとれなくなるという傾向なんです。1ページ目の表2で示したのがそういった傾向になった「きたほなみ」に対して「きたほなみR」の方が健全な生育をしているというふうに数字の方を理解いただけるかと思います。

【貴島会長】

ありがとうございます。その他、ございませんか。

なお、今日欠席の五藤委員と伊藤委員からは事前にご意見をいただいておりますので、ご紹介いたします。五藤委員からは、「提案のありました6候補について認定することに了承します。特に、小麦とばれいしょの新品種に期待しています。」というご意見です。また、伊藤委員からは「提案のありました6候補について、認定することに異存ありません。」とのご意見です。6候補とは、今日認定の審査を受ける6品種すべてのことかと思っております。なお、一括してご意見をいただいておりますので、以後のご紹介は割愛させていただきます。

もし他に意見がないようでしたら、この「きたほなみR」を優良品種として認定することに特段の異論は無いということにいたします。よろしく願いいたします。

② ばれいしょ「北海114号」

【貴島会長】

それでは次に、ばれいしょの「北海114号」について、ご説明をお願いいたします。

【神野作物開発部長】

続けて、中央農試の神野から説明いたします。ばれいしょ「北海114号」、こちらは農研機構北海道農業研究センターが育成した新品種、優良品種候補になります。この「北海114号」につきましては、でん粉原料用のばれいしょなのですが、特記すべき特徴としてジャガイモシロシストセンチュウに抵抗性を持っているということが挙げられます。4ページ上の方から来歴のところを紹介しますが、ジャガイモシロシストセンチュウ、Gpというふうにごこの文書では略しております、こちらのジャガイモシロシストセンチュウについては平成27年に北海道内で初めて確認されて、緊急防除ということで植物防疫法に則った防除対策が今行われているところですが、その抵抗性をもった初めての優良品種候補という形になっております。母親はジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性を持った遺伝資源として海外から導入しました「フリア」、それにでん粉収量が高い「サクラフブキ」、道総研が育成した品種ですが、こちらを父としまして、北海道農業研究センターで交配が行われてできた品種になります。

特徴としては、(2)の特性のところで紹介しますが、まず枯ちょう期、ばれいしょの収穫時期にも係わってきます、地上部が枯れ上がる枯ちょう期については、標準品種としてばれいしょで1番面積の多い「コナヒメ」と比較していますが、「コナヒメ」よりも2週間程度遅い「かなり晩」という、北海道で栽培されるばれいしょの中でもかなり遅い方の部類となります。でん粉重についてはいわゆる収量ですけれども、基幹品種「コナヒメ」に比べても102%から132%と多収、先ほど親に使ったと申しました「フリア」、現在シロシストセンチュウ抵抗性を持つ品種はこの「フリア」しかございませんが、「フリア」と比較すると129%から148%とかなりの多収というものとなります。表1のところには北見農試での試験成績を載せていますが、でん粉重、でん粉収量が重いということが確認いただけるかと思えます。それから、Gp抵抗性、シロシストに対する抵抗性については、親にした「フリア」と同程度、やや強というランクに評価しております。関連するデータとして、4ページの下の方、図2のところをご覧ください。スコアが大きい方がシストに強い、数字が小さい方が弱いということになります。これは北海道で発生しているシロシストセンチュウをいくつかのほ場から集めまして、シストセンチュウの方にもいろいろ生態型のようなものがありまして、品種に対する寄生性が少し異なる場合があるということで、複数のシロシストの集団に対してどのように抵抗性が発揮されているかというものを、横軸に「フリア」、縦軸に「北海114号」という形で示したものです。この数字は集団の数を示したものになります。ほぼ「フリア」と「北海114号」でいずれの集団に対しても反応は大きく違いませぬので、「フリア」と同等の抵抗性を持っていることが確認されました。こちら、概要の中では数字をお示ししてはおりませんが、抵抗性については発生ほ場でも試験を行ってございまして、作付けによってシロシストセンチュウの密度を低減できる程度の抵抗性であるということも確認しておりますので、補足させていただきます。

特性の中の4つめの紹介ですけれども、疫病抵抗性それから疫病の発病に伴う塊茎腐敗抵抗性については弱いか極弱ということ、その他、そうか病抵抗性またYモザイク抵抗性についても、やや弱か弱というふうな判定になっております。こちら、資料の中ではお示ししてはおりませんが、農業試験会議の方では数字について確認をしてきてるところです。4ページ下のところ左側の図1については、全道、特にでん粉原料用の栽培地帯であります道東地域における収量性を示してございまして、数字は「コナヒメ」に対する数字、括弧内は「フリア」に対する数字を書いてございまして、いずれも100以上の数字となっております。裏面5ページをご覧ください。長所については、シロシストセンチュウ抵抗性がやや強である、でん粉重が重いということが挙げられます。短所としては、次のページ表の3に載っておりますが、小塊茎が茎から分離しにくいということが短所になります。表3の付着塊茎数、株

当たりの個というところの数字をご覧ください。「コナヒメ」では0.8ですとか0.3といった少ない数字なんですけど、「北海114号」については、塊茎が付着したまま、いもが株から離れない、一定残ってしまうというのが目立っております。こちらが短所の一つで、もう一つに疫病抵抗性が弱い、塊茎腐敗抵抗性が極弱ということも挙げております。

用途としては、でん粉原料用ということで、こちらの5ページの中段から少し上、候補理由のところを少しかいつまんで読み上げさせていただきます。平成27年に初めて確認されたシロシストセンチュウ、これが確認されたほ場では植物防疫法に基づく緊急防除が実施されています。その緊急防除の成果で、シロシストが検出限界を下回ったところまで減少して、いわゆる緊急防除の対象から外れてきたほ場が増えてきておりますが、そのようなほ場については、基本的にはシロシストセンチュウのリスクを低減できるような抵抗性品種を栽培することが定められておまして、現在は海外から導入された「フリア」が利用されています。しかし、「フリア」自体は、でん粉原料用とするには収量性や栽培特性が劣ることが指摘されてきておりました。「北海114号」については「フリア」と同等の優れた抵抗性を持っていること、緊急防除が終了したほ場で十分栽培可能であることが確認されておまして、でん粉収量については「コナヒメ」並から多収ということで、でん粉用途としても十分な特性を持っているということで、こちらの「北海114号」については緊急防除が終了した後の必要なほ場、あるいはその周辺地域へ普及することで、収量性の向上とGpへの対策を同時にできる、安定生産に貢献できると考えております。

なお、この品種については「コナヒメ」より多収という点はあるんですけども、「コナヒメ」と比べますと成熟期、枯ちよう期がかなり遅いということ、それから塊茎が茎から離れにくいという特性が、収穫時のロスや野良生えの発生につながることもありまして、栽培面では「コナヒメ」からの置き換えはあまり積極的には考えにくいというところがあります。その結果、5ページの中ほどに栽培適地を書いていますけども、北海道ですけれども、Gp発生履歴のあるほ場及びその周辺のでん粉原料用作付け地域を主とするということで、普及見込面積については、Gp対策が必要な260haを積算してきております。面積は北海道のばれいしょ栽培面積の1%を下回りますので、成績会議の方では普及推進事項という形での整理をしておりますが、Gp対策の品種として非常に優れたものと考えております。

栽培上の注意については、1)、2)には短所に対応した栽培上の注意を記載しております。3)のところは、国や北海道の指導に従いながらGp対策を行う、4)については、このデータの中にはございませんが、少し気象条件によって二次生長が発生しやすいという特徴がございます。特に高温、干ばつを受けやすいところでは、二次生長が発生してしまいますので、培土等の一般的な二次生長の対策を行う、種ばれいしょ生産での対策を記載してきています。「北海114号」については、このような特性で、優良品種の候補ということで、今回のご提案とさせていただきます。ご検討よろしくお願いたします。

【貴島会長】

ありがとうございました。それでは、ご質問ご意見を伺いたいと思います。

～長谷川委員挙手～

【長谷川委員】

ホクレンの長谷川でございます。品種の背景については、今おっしゃったとおりでございますが、マーケット面で言わせていただきますと、近年、北海道産ばれいしょでん粉の需給環境が逼迫している状況でございます。その理由としましては、ご説明にあったとおり、Gpですとか、その他のシストセンチュウ、これが非常に大きく影響し、防除対策をせざるを得なかったというのがあり、したがって、生産が制限されてきた状況があります。また、近年

栽培している抵抗性品種の栽培方法が確立されておらず生産性が低くなっており、ばれいしょでん粉の生産力が低下してきているといったこともありました。そのような中、今回のGp抵抗性品種導入によって、従来品種を上回る生産性の向上、それが生産者の手取り向上につながるということを我々は期待しているところです。そういうことによって、面積の拡大、生産力の維持が図られることにより、実需、ユーザーが求めている生産量につながるものかなと期待しています。ぜひ認定ということで進めていただきたい。

～高井委員挙手～

【高井委員】

生産者側から見ると、枯ちょう期が2週間というのは作業的にどうなのだろうかと思う。大豆関係では経験しておりますけれども、播種時期によって変わる可能性があるということで、その辺の関係の対策をこれから出回るまでに、優良品種となるのであれば試験していただけるとありがたいです。あと、1番気になっているのは枯ちょう期の2週間、秋の2週間は相当大きいものですから、生産者が作っていただけるかどうか心配しています。センチウ対策は絶対必要ですから、それはいいんですけれども、そこだけが気になります。

【神野作物開発部長】

枯ちょう期が遅いことについては、やはり1つこの品種が広く普及するにはネックになってくると思います。ただ、今シロシスト抵抗性品種を待っている地域は実はかなり秋が遅くて、これくらいの熟期のばれいしょですと十分作付けされうる地域ということを確認しております。他の品種でいうと「コナユタカ」という晩生の品種をオホーツクの方では作っておりますので、そういう点では、そのような地域には十分問題なく入ってくると、関係者の方からも意見いただいて、優良品種候補ということにしておりますが、広く栽培するとなると、この熟期はかなり遅いという認識を我々も持っておりますので、そこは今後の改善の方針になっていくかなと思います。熟期が早いものと、例えば遅く植えて遅く収穫したりといった対応もできるんですが、遅いものについては早く植えるといっても限度がございますので、栽培上の対応はあまり簡単ではないかなと思っております。ただこの栽培の部分については、育成場の北農研センターの方にも少し優良品種に認定された後には、二次生長のこともありますので、そういったことの対応については、情報を集めて、その都度現場の方に情報共有していきたいという言葉いただいているところです。

【貴島会長】

ありがとうございます。少し前後するんですけれども、「枯ちょう期」という言葉はあまり一般的ではないので、ちょっと説明が必要かなと思います。

【神野作物開発部長】

そうですね。いわゆる「枯ちょう期」とは、成熟期を迎えて地上部が枯れ上がってしまう状態、いもの方は地下部の方でしっかりと休眠ができてくる状態なんです。枯ちょう期が遅いとなると秋が早いような地域では栽培しにくいですとか、ばれいしょの後に違う作物を作付けして輪作する場合には不利になるという話になってしまいます。

【貴島会長】

それはやはり二次生長と関係があるんでしょうか。

【神野作物開発部長】

枯ちょう期の遅さ自体は元々の品種特性で、もし二次生長が発生するともっと遅れるということにはなりますが、基本的にはここにある数字は二次生長の影響を受けていないとご覧になれるかと思えます。元々の品種特性ということですね。

【貴島会長】

ありがとうございます。

～石井副会長挙手～

【石井副会長】

消費者の立場からの質問なんですけれど、今後、この「北海 114 号」収量も多いですし、有望だと思うんですけれども、私たちが普段買っている袋のでん粉もこれに置き換わるというふうに考えてもよろしいのでしょうか。工場用がメインなのでしょうか。

【神野作物開発部長】

でん粉の中に一部含まれてくると思います。割合としては、こちら面積としてはそれほど大きくないので、かなり少ない量だとは思いますが、その中に一部含まれるということになります。

【長谷川委員】

でん粉原料用の面積が北海道で約 1 万 4,000ha のうちの目標面積が 260ha とのことなので、栽培上の都合もありますし、一部地域での普及を目指しているという話でしたので、全体としては多くないかもしれません。生産量の半分くらいはいわゆる片栗粉用途になりますので、割合としては少ないかもしれませんが、安定的にご提供できる方向に進むと思います。

【石井副会長】

すみません、1 番食に近い立場から、北海道産の片栗粉というものが高齢化社会の中で価格の勝負だけでなくいろいろなことを考えていかなければいけないと思うんですね。海外ではお料理の中でコーンスターチを使っているんですね。その中で日本はでん粉ということで、世界の中で見るとそんなに多い方ではないんですね。南米とかとは使い方が違うので。道産ということ謳っていくと値段だけではない商品価値とか、差別化につながるのかなと思ったので、質問させていただきました。

【神野作物開発部長】

ありがとうございます。北海道産のばれいしょでん粉はコーンスターチとはでん粉としての特性がかなり特徴的で、例えば水産用のかまぼこといった練り物のつなぎに使うのは、やはりばれいしょのでん粉が 1 番いいというふうに評価いただいているんですけれども、かなりいい評価をいただいておりますね。他のでん粉には置換えできないというような声を実需者の方からいただいております。そういった面では需要としてはしっかりあって、先ほど長谷川委員からもお話あったように、需給が逼迫してでん粉とかをしっかり確保していかなければならない、生産して貰わないといけないという中で、今「北海 114 号」についても今回こういった形で提案させていただいておりますが、でん粉原料用のばれいしょについては今後もしっかりした品種を育成していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

【貴島会長】

他に、ご意見いかがでしょうか。

～挙手なし～

【貴島会長】

ご意見無いようでしたら、この「北海114号」については優良品種として特段の異論なしといたします。ありがとうございました。

③ オーチャードグラス「北海35号」

【貴島会長】

次は、オーチャードグラスの「北海35号」について、酪農試の出口部長よりお願いいたします。

【出口草地研究部長】

酪農試験場の出口です。よろしくお願いいたします。ここからオーチャードグラス含め、飼料作物4品種を私の方からご説明させていただきますけれども、できるだけ簡潔な説明をするために育成者や試験場等を略称で紹介させていただきますことをご容赦ください。

それでは、オーチャードグラス「北海35号」の来歴からご説明いたします。「北海35号」は、北農研センターとホクレンさんが母系選抜法により育成した品種となります。まず、保存優良栄養系などから晩生の20栄養系を選抜・多交配し、20母系を定植。それから、越冬性やWCS含量、収量性を評価し、6母系17個体を選抜・多交配して、「北育107号」を作出しました。この「北育107号」の増殖2代種子を用いて北農研とホクレン十勝試験地で生産力検定予備試験を実施し、良好だったことからこれに「北海35号」を付して2022年から3年間道内5場所において品種比較試験、酪農試験場において耐寒性特性検定試験、ホクレン十勝試験地で適応性評価試験を実施、というものになります。

特性ですが、9ページの表1をご覧ください。「北海35号」と標準品種「パイカル」の数字を並べてお示ししております。まず出穂始めが「パイカル」と同じ5月29日ということで、「パイカル」と同じ晩生という形になります。それから表2の方に飛びまして、3カ年合計乾物収量が試験場所別に記載してあります。北農研センターさんから右端に飛びまして、全道平均が実数で245.6kg/a、括弧内に標準品種比が書いてありますが103ということで、やや多いという結果でした。収量性については、この括弧内の標準品種比で場所別に見ていきますと、左側の北農研さんが105、天北では106、酪農試では105、この3場所で安定して多かったです。

また表1に戻りまして番草別に見ますと、1番草、2番草、3番草の順に103、100、105となります。2番草は同じですけれども、1番草と3番草でやや多く、年次で見ますと2年目、3年目ともに103で安定しているということが分かります。続いてその下の越冬性、これは評点になりますけれども、「パイカル」5.4に対して5.7でこれは差がありません。全道と道東の2段ありますけれどもこれも差が無しで、その下の早春の草勢、これも概ね差が無し。続いて耐寒性、耐凍性、雪腐病抵抗性という3項目ですけれども、これは耐寒性については「パイカル」と同じ、中～やや弱という判定、耐凍性はより低い温度まで耐えられるということですが、逆に雪腐病抵抗性については少し生存率が低いということで、総じてあまり長所となるものにはないかなと思います。続いて混播試験では、アカクローバ、アルファルファ、シロクローバ3草種についての評価でありますけれども、これも括弧内が標準品種比で、順に110、96、104ということでクローバに対する混播適性としてはやや優れるという判定、アルファルファに対しては並という判定となっております。その下、多回刈とありますけれども、これは模擬放牧条件という、10回ほどの刈り取りをやったときに収量性にどう出るかということをやったわけですけれども、これが104、採草放牧兼用というのは1番草を採草利用して、その後多回刈したというものになりますけれども、これも102で問題なし。定着時草勢を飛ばしまして草丈を見ますと、1番草から3番草まで「パイカル」と比べて高い数字となっております。このうち、はっきりと差のついた3番草についてはやや高いという整理をしています。最後の採種性については差がありません。

続きまして、表3を見てください。飼料成分について調べております。飼料成分CPから順番に見ていきます。番草別で始まり最後に平均となりますけれども、ここは平均の量で各項

目ご紹介します。まずCP、粗タンパクですね。これについては差がありませんでした。その隣ADFからObまでの4項目、詳細は省きますけれども、繊維含量、繊維の分画になります。このいずれも「パイカル」より低いという結果になっております。繊維含量が低いということですが、一般的には繊維は消化性が低い分画になりますので、乾物消化率としては高くなります。この表の右側から2番目に推定TDNの数字ありますけれども、これを大雑把に言いますと乾物消化率とほぼ同義ということになります。このため繊維含量が低いことから、TDN含量が逆にやや高いというような傾向が出ております。これに乾物収量を掛けて出した推定TDN収量が、標準品種比で108で高くなっております。というのが特徴です。あと最後に右から3番目のWSCで、これは水溶性糖類になりますけれども、牧草は採草利用されたとき一般的にサイレージという漬物に調製して保存されます。サイレージ調製するときの品質を左右する、発酵の基質になるものがWSCとなります。平均で「パイカル」よりも3ポイント程度高くなっており、これが長所となります。10ページ目をご覧ください。長所は、乾物収量がやや多収で、すじ葉枯病に対する耐病性に優れ、WSC含量が高いこと。短所はなしです。

用途は、採草利用を主体として、放牧利用及び採草放牧兼用にも利用できる。土壤凍結地帯において、気象条件の厳しい年に越冬性がやや劣る場合があることから、晩夏の追肥等により越冬性を向上させることが望ましい、としております。越冬性がやや劣る場合があるところ、補足説明させていただきます。先ほどの9ページ表2をご覧ください。真ん中のあたりですね、北見の数字があると思いますが、ここには載せておりませんが年次別に見ていくと、3年目の1番草で標準品種より少ないということがありました。北見は土壤凍結地帯であり、越冬条件が非常に厳しい場所と認知されておりますので、この点を注意喚起するためにこのような、晩夏の追肥等により越冬性を向上させることが望ましいという記載をしております。

10ページの次の候補理由に移ります。オーチャードグラスは環境耐性、競合力及び再生力に優れるが、夏期に飼料品質が低下する場合があります。改良が求められていました。「北海35号」は、早晚性が晩生で「パイカル」に比べてやや多収で、すじ葉枯病に対する耐病性に優れ、WSC含量が3ポイント高く、TDN収量が多い。飼料品質と耐病性が改良されていることから、北海道における自給飼料の高品質化と安定生産に貢献できるということにしております。栽培適地は、道北、道央、道南を中心に北海道全体、普及見込み面積は5,000ha、成績会議での判定は普及推進事項となっております。以上です。よろしく申し上げます。

【貴島会長】

ありがとうございます。ただいまの説明にご意見、ご質問ありませんでしょうか。

～関委員挙手～

【関委員】

家畜改良センター十勝農場の関です。ご説明ありがとうございました。ただいまのご説明にもありましたように、この作物につきましても、WSCが高く、またTDN含量も多いということで、飼料の成分品質、収量が多いという特性がある良い品種であるというふうに考えております。これを持ちまして、この品種を優良品種とすることにつきまして依存は無いということをお願い申し上げます。また、私どもの牧場でも試験を実施してございまして、良好ということで問題はないというふうに考えております。以上です。

【貴島会長】

ありがとうございます。他にご意見、ご質問ございませんか。

～挙手無し～

【貴島会長】

「パイカル」と同じくらいの越冬性という話だったと思うんですけども、最後の方で越冬性は低いと説明があったと思うんですが、整合性はどのようになっていますか。

【出口草地研究部長】

ご質問ありがとうございます。北見農試の3年目の1番草で収量が低くなったということですが、整合性については、表1をご覧ください。中段あたりの越冬性の項目、さらにその下の耐寒性、耐凍性、雪腐病抵抗性の3つの項目があり、それぞれ差がついてないので、どうということか？となりますが、耐寒性特性検定が中～やや弱と同じ評価ですが、この中に差がありまして、その傾向が北見農試での収量とほぼ一致していたので、越冬性がやや劣るといような部分もあるのかなというように評価をしております。

【貴島会長】

ありがとうございます。

全道ということだったんですけども、北見農試の結果を受けると、南の方が良いのかなという気がしました。

【出口草地研究部長】

そのとおりで、そのため10ページの普及の栽培適地については、道北、道央、道南を中心とした北海道全域といった記載をしています。

【貴島会長】

ありがとうございます。

いかがでしょうか。坂倉委員、ご質問ございませんでしょうか。

【坂倉委員】

データを見ると短所・弱点が少ない品種に見えますし、我々がメインで扱っている野菜もそうなんですけれども、おっしゃるとおり北海道中で素晴らしい品種というのは、なかなかそれで選ぶと無いものだと思っていますので、適した地域があるのなら優良品種として十分な性能なのかなとは思いました。以上です。

【貴島会長】

ありがとうございます。それでは、他にご意見ございませんでしたら、優良品種としての認定に関して特段の異論は無しということにいたします。

④とうもろこし（サイレージ用）「P1204」

【貴島会長】

それでは続いて、サイレージ用とうもろこしの3品種です。これは一括でご説明いただいた後に、委員の皆様からご意見、ご質問を伺うこととします。まず、「P1204」についてご説明お願いいたします。

【出口草地研究部長】

それではご説明いたします。資料の12ページで、来歴ですが、アメリカのパイオニア社が育成した単交配の一代でホクレンさんが導入されました。2019年にOECD登録されているんですけども、前年の2018年に品種比較予備検定試験を行い、有望性が認められたことから、2022年から3年間、北農研センターさんで品種比較試験を実施、それから2023年から2カ年は千歳市において同準現地試験を行いました。北農研さんでは、品種比較試験と並行して、すす紋病抵抗性、ごま葉枯病抵抗性に関する特性検定試験を行っております。

特性です。1)の早晚性を読み上げますけれども、絹糸抽出期は同日、総体乾物率は並、

北海道統一RMは総体が104、雌穂が92で、早晚性は晩生に属するとなっています。ここでちょっと補足しますが、北海道統一RMというのは、Relative Maturityの略で、相対的な早晚性を示す指標となっています。数値が大きいほど晩生、小さいほど早生ということなのですが、北海道内では範囲に応じて、極早生から晩生まで4区分に仕分けております。それで今回のものは晩生に仕分けられたというところでございます。

2) 以降は表1でご説明いたします。表1の左側、発芽期から順番に、下の2行平均でお示しいたします。まず発芽期は、5月28日で標準品種の「北交65号」と同じ、初期生育も5.6で差はありません。絹糸抽出期も同日、桿長は271cmということでやや高い。着雌穂高はほぼ同じ。倒伏個体率はちょっと注意が必要なんですけれども、14.4%で「北交65号」より高い形で、やや劣るという評価をしております。ただし、脚注3に書いてありますように倒伏の多くは、倒伏角度は30度以上60度未満、つまり少し傾いていただけだったので、機械収量に大きな影響を与えるものではなかった。そのため、倒伏は多いけれども、優良品種の欠格要件にはあたらないと判断しました。

次のページに行ってください、収量特性です。真ん中の方に茎葉、雌穂、総重とあり、総重の左に同左比とあります。平均で見ると、「P1204」は「北交65号」比で112%と多収でした。さらにその横、推定TDN収量も114%で多収でした。

次に表3に病害抵抗性に関する特性検定試験結果を示しておりますけれども、2つありまして、すす紋病とごま葉枯病です。まず右側のごま葉枯病からご説明します。2022年から2024年まで3カ年行って、平均で評点が「P1204」で3.9、標準品種で3.3であり、数字が大きくなるほど出ているということなので、標準品種「北交65号」と比べると、やや弱いという評価になります。すす紋病につきましても、2022年から2024年まで3カ年実施して、判定が「北交65号」と同じかなり強になっております。これの扱いなんですけれども、資料18ページの表に飛んでいただけますでしょうか。1番上から極弱、1番下が極強ということになるんですけれども、この内のやや強から極強までについては、右側に説明が書いてありますけれども、優良品種候補として選定でき、すす紋病抵抗性の高さが利点、つまり長所と農業試験会議において仕分けられております。つまり、絶対評価をします、という形になっています。これに基づいて13ページに戻っていただいて評価をすると、「北交65号」と比べると波があるんですけれども、絶対評価なのでこれはかなり強という評価になります。

まとめますと、(3)長所及び短所がありますけれども、長所はすす紋病抵抗性がかなり強で、乾物総重、推定TDN収量が多いこと。短所は耐倒伏性がやや劣ること、というふうになっています。(4)は用途ですけれども、これはサイレージ用となっております。

候補理由としては、とうもろこしサイレージは高栄養時給粗飼料として高く評価されており、輸入穀物価格高騰の情勢に対応し、飼料自給率の向上を図る必要があることから、その重要性が増してきております。「P1204」の早晚性は晩生に属し、すす紋病抵抗性がかなり強で、乾物総重、推定TDN収量が高く、高栄養価のサイレージ原料となり、このため普及対象地域において良質サイレージ原料の安定栽培と生産性向上に貢献することが期待できる、としております。

栽培条件は、気象条件の良好な道央中部、道央南部、道南地域で、普及見込み面積は560ha、成績会議における判定は普及推進事項となっております。以上になります。

(④～⑥は最後にまとめて審議)

⑤とうもろこし（サイレージ用）「LG31295」

【貴島会長】

続いて、「LG31295」についてお願いいたします。

【出口草地研究部長】

それでは、16ページになります。まず来歴です。フランスのリマグレインベルノイルホールディング社が単交配により育成した一代雑種品種であり、2017年にOECDに登録。雪印種苗が2021年に予備検定試験を行った結果、有望性が認められたため2022年から3カ年、北見農試及び十勝牧場において品種比較試験を実施しました。2023年から2024年にかけて鹿追町、遠軽町、清水町において1年から2カ年、現地試験を行っております。さらに、2023年から2024年に北農研センターにおいてすす紋病抵抗性に関する特性検定試験を実施しております。なお、2023年の十勝牧場は、施肥機の異常により試験の斉一性が担保できなかったため試験から除外しております。

特性です。早晚性では、絹糸抽出期では1日～2日遅く、収穫時熟度は並からやや遅い。雌穂乾物率及び総体乾物率は農試平均、現地ともに並である。早晚性は早生に属する。北海道統一RMは総体が84、雌穂が83である、となっております。表1を見てください。17ページになりますけれども、こちらの表は上段の行が農試、下段の行が現地となっております。中ほどにある農試平均の数字でご説明いたします。発芽期は同日、初期生育もほぼ同じ、抽出期は2日遅い、桿長は高い、着穂高がやや高い、倒伏個体率、ここだけ見ると差はありませんが、下の現地平均を見てください。こちら「LG31295」に比べると「KD320」、標準品種が18.0と高いので、このままですと「LG31295」の耐倒伏性が高いということになるんですが、内訳を見ると遠軽町で局所的な倒伏が認められて、ちょうど「KD320」が栽培されているエリアだったということで、差は判断できないということで考えられております。ただ、データとしてはお示ししております。

表2の方に収量を示しております。先ほどの表と同じで、真ん中の列に乾物重の総体があって、その左側に同左比があります。農試平均で「LG31295」は109、現地平均で117で多収。さらに飛んで、TDN収量の同左比が108、現地平均で115とこれも多収ということになります。

続いて、すす紋病抵抗性に関する特性検定試験ですが、これは先ほどご説明したとおり絶対評価で、判定が強となっております。

まとめます。1ページ戻っていただいて、(3)長所及び短所の欄があります。長所は乾物総重及推定TDN収量が多いこと。また、特性検定試験におけるすす紋病抵抗性が強であること。短所はなし。用途はサイレージ用です。

18ページをご覧ください。2の候補理由です。1段落目は先ほどの候補理由と同じなので割愛いたしますが、「LG31295」は早晚性が早生に属し、標準品種「KD320」より乾物総重、推定TDN収量が多い。また、特定検定試験におけるすす紋病抵抗性が強であることから、すす紋病における栄養収量の低減リスクを緩和できる。このため、普及対象地域において良質サイレージ原料の安定栽培と生産性向上に貢献できる、としております。

栽培適地は、気象条件のやや厳しい道央北部地域、十勝・網走地域、気象条件の良好な道北地域。普及見込み面積は1,300ha。成績会議における判定は普及奨励事項とされております。以上です。

【貴島会長】

ありがとうございました。

(④～⑥は最後にまとめて審議)

⑥とうもろこし（サイレージ用）「SL19017」

【貴島会長】

それではさらに、「SL19017」について、ご説明をお願いいたします。

【出口草地研究部長】

20ページになります。まず来歴からですね。「SL19017」、流通品種名「ネオデント・ユミル85」は、雪印種苗が育成した単交配の品種です。そして2021年に予備検定試験を行い、有望であったことから、2022年から3カ年、畜試、北見農試で品種比較試験を実施し、2023年からの2カ年は、それぞれ鹿追町、清水町、遠軽町で1年から2年の現地試験を実施しております。また、北農研におきましては、2023年から2カ年、すす紋病抵抗性に関する特性検定試験を実施しております。

特性です。早晩性になりますけれども、絹糸抽出期は1日遅く、収穫時熟度は並である。雌穂乾物率は高く、総体乾物率はやや高い。北海道統一RMは総体85、雌穂が81で、早晩性は早生に属する、ということです。雌穂での数字が81で総体の85よりも小さくなっています。これは、雌穂乾物率の高さが反映されてのことかと思えます。

その他の特性は表1でご説明いたします。21ページの上段をご覧ください。先ほどと同じような作りになっておりまして、農試の平均が中段にあります。発芽期は6月2日で変わらず、初期生育も差はありません。絹糸抽出期は1日遅くて、稈長は高い、着穂穂高は並と判定されています。倒伏についても差は無いとみなしております。先ほどと同じように現地では標準品種の方が多くはありますが、これは突発的で考慮はされておられません。

表2の収量特性をご覧ください。乾物総体の比は105、現地平均で113、この2つと、推定TDN収量が農試平均で105、現地平均で112というところで、多収という評価になっております。表3がすす紋病抵抗性に関する特性検定試験結果ですが、1番右端の判定はやや強という判定になっています。

20ページに戻りまして、長所及び短所ですが、長所は乾物総重、推定TDN収量が多く、雌穂の登熟が速いこと。特性検定試験におけるすす紋病抵抗性がやや強であること。短所はなしとなっております。用途はサイレージ用ということになります。

22ページの上段にあります候補理由ですが、1段落目は省略して、「SL19017」の早晩性は早生に属し、標準品種「KD320」より乾物総重、推定TDN収量が多く、雌穂の乾物率の上昇が速やかであることから、酪農・畜産の主産地である普及対象地域において良質サイレージ原料の安定栽培と生産性向上への貢献が期待できるとしております。

栽培適地は、先ほどの品種と同じ気象条件のやや厳しい道央北部地域、十勝・網走地域、気象条件の良好な道北地域としております。普及見込み面積は1,700haで、成績会議における判定は普及奨励事項となっております。以上になります。よろしく申し上げます。

【貴島会長】

ありがとうございました。

それでは3つ紹介していただきましたが、3つまとめてご質問、ご意見を受けようと思っております。

～関委員挙手～

【関委員】

家畜改良センター十勝牧場の関です。ご説明ありがとうございました。3つの品種ともそれぞれご説明ありました特性をもっておりまして、いずれも良質サイレージの安定供給、生産性の向上につながるものだと、私も考えております。この3品種について、優良品種とし

て認定することに異論はありません。以上です。

【貴島会長】

ありがとうございました。

それでは3つ紹介していただきましたが、3つまとめてご質問、ご意見を受けようと思います。

～関委員挙手～

【関委員】

家畜改良センター十勝牧場の関です。ご説明ありがとうございました。3つの品種ともそれぞれご説明ありました特性をもっておりまして、いずれも良質サイレージの安定供給、生産性の向上につながるものだと、私も考えております。この3品種について、優良品種として認定することに異論はありません。以上です。

【貴島会長】

ありがとうございました。他にご意見、ご質問ありませんでしょうか。

～吉村委員挙手～

【吉村委員】

私も優良品種として認定することに異論は無いんですけども、一つだけ質問させてください。最初、それぞれにある交配の部分なんですけど、デント×デントというのと、デント×フリントというのは、デントはデントコーンのことでしょうか。

【出口草地研究部長】

デントコーン、つまり子実の表面が奥歯のようにへこんでいるものがそうですが、元々飼料用というのはこのデント種が中心だったんですけども、近年はデント×フリントというような、デント種とフリント種を掛け合わせた、もしくはフリント種同士を掛け合わせるような形で、多様化が進んでおります。今は、デント×フリントが一番多いのではないかと思います。交雑させることで、雑種強勢等の効果を発揮させることができるようになっております。よろしく申し上げます。

【吉村委員】

写真で見る限り、フリントの性質が出ているというのはどのようなことなんでしょうか。

【出口草地研究部長】

写真で見ると、例えば「P1204」、15ページですが、この写真はもしかしたら早いときなのかもしれませんけれども、子実の表面がへこんでいますよね。これがデントの特徴が現れているということになります。一方で19ページでは、表面がつるんとしていますよね。これはフリントの方の特性がしっかり現れているということです。フリント種とデント種ではでんぷんの質が変わるので、消化スピードが早い、遅いの違いはあると聞いております。

【吉村委員】

ありがとうございます。

【貴島会長】

他に、ご質問、ご意見ございませんでしょうか。

～挙手無し～

【貴島会長】

最初のとうもろこしはどちらかというとな南の方、道央、道南地域ということで、残りの2つは少し気候の厳しい地域に適しているのではないかということなんですけれども、この2つの特徴としては、そんなに違いが無いかなと思ったんですけれども、どうでしょうか。

【出口草地研究部長】

ご質問ありがとうございます。ご指摘の通りです。後半の2品種は普及対象地域も一緒、早晚性も早生ですし、さらにこの北海道統一RMというのも1ポイント程度しか変わらないので、どうして同じメーカーから同じ早晚性の品種を2種も出すんだろうと論議になりました。実は、書いてありますとおおり、1つは雪印種苗さんが育成者の品種、優良品種的な立場からいいですよと、これはかなり長く安定して供給できるだろうということが期待できます。2つを比較するとなんとなく導入品種の方が優れているような気がしますけれども、安定供給の面からすると懸念がある。決定打になったのは普及見込み面積なんですけど、「LG31295」が1,300ha、「SL19017」が1,700haで、両方足して3,000haとなりますが、十勝、網走は飼料用とうもろこしの主産地ですが、栽培面積は約4万haになり、2つ足してもそのうちの1割に満たないため、安定供給の観点から見ても、両方とも優良品種奨励制度に則っており、矛盾することではないだろうという判断をいたしました。

【貴島会長】

ありがとうございます。今のご説明に対して、何かご意見、ご質問ありませんか。

～挙手無し～

【貴島会長】

これは雪印が契約をして栽培するということはあるですか。どこか特定の農家とかと。

【出口草地研究部長】

基本的には雪印さんは生産者とかに種子を販売するといった立場であって、委託栽培という形は聞いたことがないです。

【貴島会長】

ありがとうございます。他にご質問ございませんか。

～高井委員挙手～

【高井委員】

単純な話なんですけれども、今1割に満たないとありましたけれども、結果的にこういう品種は生産者から要望があったものなのか、こういった形で優良品種として上がってきたのか、それは定かではないんですけれども、面積が1割にも満たないものをこのように議論するのはなぜか、単純な考えでお聞かせ願いたい。

【出口草地研究部長】

飼料用とうもろこしというのは、農耕期間をフルに使って栽培されています。そして晩生のものほど多収な傾向がありますので、農家さんとしては自分の播種時期やほ場の位置、収穫適期までどのくらいの積算気温があるかによって品種を選択していくんですよね。少しでも遅いものを選ぼうという形なんで、早生で1品種あればいいだろうというような話ではなくて、他の作物と違って、多様な品種を選んでいただいているというところがあります。それは好みがあったり、場所によってはすす紋病がひどく出るところだったら、その抵抗性が強いものを選んだり、倒伏の経験を持たれている方は倒伏に強いやつと、そういうような重きを置いている部分はかなり違いますので、一律の品種を栽培してくださいという言い方は

してなくて、標準品種と比べていいものであれば優良品種にして特性を評価するんでそれを見て選んでくださいというようなスタンスで試験を行っております。お答えになりましたでしょうか。この後優良品種の改廃があるんですけども、実は飼料用とうもろこし、この地域、十勝、網走を普及対象地域とする品種は20品種近くあります。そして今回そのうちの5品種が廃止になりますけれども、どんどん随時入れ替わりが行われていて、その結果として品種の改良がかなり進んできているという形になります。他の作物のように生産物を農協として出荷しませんし、優良品種制度の枠組みに様々なメーカーさん入っています。雪印種苗さん、ホクレンさん、タキイ種苗さん、そうやって入ってくる中で、ラインナップを少しずつ、特性が違うものを揃えて、競合していくという形になります。

【高井委員】

ありがとうございます。

【貴島会長】

他にご意見無ければ、優良品種として特段の異論はないものといたしますので、よろしく願いいたします。

(2) 北海道農作物優良品種の認定取消し（案）について

【貴島会長】

続いて議事の2、北海道主要農作物優良品種の認定取消し案について審議いたします。取消しの候補は、資料の24、25ページに掲載しております、14品種です。それでは事務局よりご説明をお願いいたします。

【川上主幹】

それでは事務局より、優良品種の認定取消し候補について、ご説明させていただきます。資料は24ページ、25ページになります。まずはじめに、資料25ページの下の方に書いてございます、欄外をご覧いただきたいと思っております。こちらに認定取消し基準が記載されてございます。基準は全部で6つございます。まず1つ目、品種特性が変化し、優良品種としての基準を満たさなくなった場合。2つ目が、普及対象地域で栽培上重要とされる特性または生産物の利用上重要とされる特性に関し、重大な欠点が明らかになった場合。3つ目が、作付面積が著しく減少し、今後とも増加する見通しが無い場合。4つ目が、新たな優良品種によって置換えが可能である場合。5つ目が、種苗の供給が困難となった場合。最後6つ目、品種育成者等による条例第5条の規定に反する行為が明らかになった場合。この場合の条例とは、北海道主要農作物の種子の生産に関する条例でございます。第5条第2項に、品種育成者は、優良品種を育成したときは、種子生産者が優良種子を安定的に生産するために必要な優良品種の種子の提供及び種子の生産に資する情報の提供を行うよう努めるものとするとして書いてございますが、その責務を果たさない場合がこの最後の（6）に該当するものでございます。これらの（1）から（6）までの基準と、種苗の生産・流通に係る農業団体、種苗会社などの意見等を勘案しまして、優良品種の認定取消し候補を選定してございます。

それでは24ページに戻っていただきたいと思っております。資料は、左から右へ順に、作物名、品種名、優良品種認定年次、育成場、該当する取消し基準、取消しの具体的理由、直近5年間の作付面積の推移が記載されております。優良品種の認定取消し候補は、上から順に、たまねぎ、やまのいもがそれぞれ1品種、牧草が2品種、サイレージ用とうもろこしが10品種、合計14品種となっております。この資料に基づきまして、ご審議の程、よろしく願い申し上げます。以上でございます。

【貴島会長】

ありがとうございます。それでは、ただ今のご説明について、ご質問、ご意見ございませ

んか。

～挙手なし～

【川上主幹】

主に、作付面積が減少しまして今後とも増加する見込みがないということで、（3）の理由がほとんどでございます。25ページの10番目、サイレージ用とうもろこしにつきましては、新たな優良品種（HE15037）に置き換えが進んだため、現在のところ作付けがないというようなものでございます。全体としまして、令和5年につきましては、作付けが著しく減少、あるいは全く作付けがされていないということと、今後とも増加する見込みがないといった品種につきまして、認定取消しをさせていただきたいということでございます。以上です。

【貴島会長】

いかがでしょうか。坂倉委員、いかがでしょうか。

【坂倉委員】

特段には。先ほどサイレージ用とうもろこしでもご案内、ご説明にあったんですけれども、種子の安定供給の関係で2品種という話がありましたけれども、今この表を見ると、令和2年に決定されてもう種を採らない品種があるものなんだなというところが少し気になりました。これをやめることは全然、取消し候補の中に入っていることは当然なんだろうなと思うんですけれども、こういう、短期間で種の供給がなくなるという品種をそもそも優良品種に挙げたときに、そもそも判断のしようがないとは思うんですけれども、現場が混乱しなければいいなど。取消しに関しては、何も異議はないです。

【貴島会長】

ありがとうございます。皆さん、種を作っていないのであれば、優良品種としての価値がないということになりますので、お認めいただけると思います。以上、品種の改廃については、皆さん異議なしというところで、結論を出したいと思います。よろしくお願ひします。

五藤委員、伊藤委員ともに、提案のあった14候補について認定取消しすることに異存はありませんということもあわせていただいております。さらに、本日欠席の五藤委員から、全体的に地球温暖化に対する育種をお願いしたいというご意見を事前に受けております。

（3）その他

【貴島会長】

それでは、本日審議した品種以外のことで、優良品種の開発や品種を支える種子の生産などについても、ご意見やご見解がございましたら、ご発言をお願いいたします。

【吉村委員】

はい、先ほどおっしゃられたように、地球温暖化というか、気候が変わってきているんですよね。それで、早め早めに手を打っていただいているとは思いますが、ここにもう少し予算を多く付けていただきたいというのが願ひなので、今後検討していただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

【関委員】

私どもも、飼料作物の増殖等に参画しているところでございます。今後とも、育成者の皆様が作出しました品種につきまして、より早く増殖し、確実に農家の皆様に届くようにしたいと思っております。また、作出された品種の実証展示をいろんな方のご協力を得ながらやっているとございます。今後とも取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続き私どもの活動について、ご協力・ご指導いただければと思ひます。よろしくお願ひいた

します。以上です。

【長谷川委員】

私どもとしましては、生産者、それとユーザー様、消費者の方々をつなぐ立場だと思っています。先ほどのでん粉ですとか、麦の関係での実需者ニーズですとか、生産者ニーズについて触れさせていただきましたが、今後そういった実情、需給環境等を共有させていただくことで、ぜひ育成の材料にしていいただければと思っています。あわせて、皆様には今後ともご協力いただければと思っています。

【高井委員】

種子の関係なんですけれども、特に種子とは安定供給が大事なのではと思っています。去年からお米騒動ということで米が上がっているということで、お米の供給の関係で、皆さん主食用米を作りたがって、他のものがなかなかできないという形なっております。供給元のホクレンさんをお願いするしかないとは思いますが、見通しがなかなか見通せないところで種子の生産をするのは大変だと思うんですけれども、その辺を上手く鑑みながら安定供給をお願いしたいと思っています。よろしく願いいたします。

【石井副会長】

今日は新しい優良品種のことをたくさん伺うことができまして、ありがとうございます。消費者の立場からは、安いだけではなくて、美味しいとか、甘いとか、そういう味だけでこれからの21世紀話ができるのか、私たちが食べていくということに対してもうちょっと考えていかなければならないのかなと、審議会に参加して考えさせられました。ありがとうございます。

【貴島会長】

ありがとうございます。北海道の農作物は、北海道だけではなく日本の食料基地としての役割も担っていると思いますので、これからもいろんな環境変化や需要の変化に対応できるような育種の体制が必要かと思えます。現場で働いておられる方々、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは本日の審議の結果について総括いたします。本日、知事から諮問を受けました6品種を優良品種として認定すること、14品種について認定を取り消すことについて、本審議会としては異存ないこととして答申することとし、答申書の文面については会長である私に一任させていただきたいと思えます。なお、正式な認定や取消しについては、答申書の内容を踏まえた上で、道庁において決定や公表を行うこととなっておりますので、ご承知願います。

それでは、その他になりますが、事務局から何かございませんでしょうか。

【花岡農産振興課長】

特にございません。

【貴島会長】

それでは本日の議題は全て終了いたしました。全体を通して何かございますでしょうか。

～発言なし～

【貴島会長】

皆様のご協力で円滑に議事を進行することができました。議事が終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。

7 閉会

【花岡農産振興課長】

貴島会長、議事進行どうもありがとうございました。お疲れ様でした。以上をもちまして本日予定していた議事は全て終了いたしました。委員の皆様、長時間にわたりご審議いただいたこと、あらためてお礼申し上げます。閉会に当たりまして、牧野生産振興局長よりご挨拶を申し上げます。

【牧野生産振興局長】

貴島会長、石井副会長始め、委員の皆様には長時間にわたりご審議いただき、厚くお礼申し上げます。本日ご審議いただきました結果を踏まえまして、道といたしましては、優良品種認定等の最終的な手続きを進めさせていただきたいと思っております。北海道が我が国最大の食料供給地域として発展していくためには、優良品種の開発、そして優良種子の供給がその地位を支えていく上で、極めて重要と考えております。道では条例に基づきまして、優良品種の認定を始め、本道農業の発展となる優良種子の安定供給、こちらに引続き取り組んで参りますので、委員の皆様方におかれましては、今後も変わらぬご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、閉会の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

【花岡農産振興課長】

以上をもちまして、本日の審議会は閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。